

教育課程編成委員会

平成 28 年度第 1 回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：平成 28 年 10 月 19 日(水) 18：30～20：00

場 所：視聴覚教室（146 教室）

2. 出席者

山下裕貴、堤下隆司、谷川博康、増田和浩、中安哲男、野瀬孝男、中島良明、
山本剛、小池裕也、田中勲、村橋昭洋、小島章、小松原学、村松雄一郎、大上哲男

以上 15 名

3. 配布資料

資料 1-1：平成 28 年度第 1 回委員会 議事次第

資料 1-2：平成 28 年度第 1 回委員会 出欠予定一覧表

資料 1-3：平成 27 年度第 2 回委員会 議事録(案)

4. 議事次第

(1) 開会挨拶(資料 1-1)

堤下校長から開会の挨拶がなされ、教育課程編成委員会の意義および主旨説明があった。
山下理事長から挨拶に続き、堤下校長から本日の議事内容の説明が行われた。

(2) 委員紹介(資料 1-2)

出席者の確認を行った。

(3) 平成 27 年度第 2 回委員会議事録(案)の確認(資料 1-3)

谷川委員(文責)から前回開催された平成 27 年度第 2 回委員会(平成 27 年 2 月 12 日実施)
の議事録を説明・確認し、その内容について全会一致で承認された。

(4) 議案

1) 平成 28 年度 4 月から各学科の運営状況報告

平成 28 年度 4 月から新カリキュラム実施学科の運営状況を中心に、建築学科(昼・夜)、建
築デュアルシステム科(夜)、建築 CG デザイン学科、空間デザイン学科、専科 2 級建築士科、
住環境リノベーション学科、土木工学科、建設エンジニア学科、ガーデンデザイン学科につ
いて、各科長・副科長より報告があった。

① 建築学科(昼・夜)、建築デュアルシステム科(夜)…増田委員

建築学科(昼・夜) 建築デュアルシステム科(夜)は、平成 27 年度入学生から新カリキ

ュラムで運営をしている。現在の2年生が卒業して1サイクル終了となる。産学連携の一環としてインターンシップを夏休み・春休みで実施している。参加者は多くなっており、就職のミスマッチを防止するためにも協力をお願いしたい。また、ワークショップや資格対策講座の充実を図っている。資格については福祉住環境コーディネーター・宅地建物取引士・カラーコーディネーターなど合格率の向上、講習会など検討していきたい。

- ② 建築CGデザイン学科、空間デザイン学科、専科2級建築士科…見邨委員（代理：増田）
建築CGデザイン学科・空間デザイン学科は、新カリキュラムで運営をしているものの、前回の課題の一つである建築学科と比較して、科の特色をしっかりと出していきたいと検討しているところである。建築CGデザイン学科はCADの資格・BIMなどの取り組み、空間デザイン学科はデッサンや手書きのパスなどのレベルアップが検討の中心である。専科（2級建築士科）は2級建築士の合格率の向上が最も重要課題で、3月から授業を始めたり、入試制度を導入するなどして合格率向上に取り組んでいる。結果は12月に発表されるが、合格率は高くなってきていると思われる。

- ③ 住環境リノベーション学科…中島委員
住環境リノベーション学科は4年前に始まり、今年の3月卒業生は2期生。現在3期生の2年生が33名、4期生の1年生が1組24名、2組が23名在籍している。本学科は、現場の施工管理者を養成する学科で、現場での役所提出書類の書き方・現場内の書類製作方法・現場での仕事の内容等現場に特化した授業内容を多く取り入れている。本年度からカリキュラムを変更し、座学を減らし、実学を増やした結果、現場管理の業務等が非常に理解をしやすくなり、学生からは好評である。授業以外では実際の建設会社の工事現場見学・住宅現場の見学・キャタピラによる資格取得（1年次4つ、2年次5つ取得）や1年次の9月に行われる富士教育訓練センターでの1週間合宿による現場作業実習等でも建築の業務の内容を理解することに努めている。なお、2年次に実施する卒業設計での意匠図からの施工図作成も実施している。

- ④ 土木工学科、建設エンジニア学科…野瀬委員
土木工学科は建設事業の管理業務全般について実務主体の専門技術教育を行い、企画、設計、計画、プレゼンテーション並びに現場環境等をいち早く把握し、さまざまな問題に対応できる現場管理者の養成を目指している。建設エンジニア学科は土木分野の中でも施工に特化し、特に建設機械のオペレータとしての技能を習得し、さらに建設現場にて職長・安全衛生責任者等として建設生産プロセスのうち「施工」の監督ができる人材育成し、情報化施工に即応できる技術者の養成を目指している。今年度も建設技術展の橋梁コンテストへの参加。10月23日に実施される2級土木施工管理技術検定試験の100%合格を目指して教育活動を実施している。

- ⑤ ガーデンデザイン学科…中安委員
1年生28名、2年生23名、計51名が在籍している（内女性21名、留学生6名）。

28年度1年生は新カリキュラムで運営。旧カリキュラムと大きな変更はないが、環境に関連する科目を重視し、より実践的なものになっている。専門教育40科目の内、28科目は演習・実習を包含する実践教育科目、講義科目は12科目である。地域との連携授業を積極的に実施し、1・2年合同での課題解決型授業を展開。デザイン設計→積算→施工→維持管理と一貫したものづくり実践授業を心掛けている。

2) 意見回収・議事

平成28年度各学科の運営状況報告を受けて、各委員から次のような意見が出された。

- ① 新カリキュラムの導入は歓迎されるが、座学を減らして実習を増やしたことで、座学がおろそかになっていないか。しっかりとした基礎力を養成するうえでも座学の充実をお願いしたい。
- ② 根気がなく、すぐ辞めてしまう早期離職者の問題が深刻である。能力はあるが、体力のない学生が多いと感じる。インターンシップなど社会経験を通じて、コミュニケーション能力を培っていただきたい。
- ③ 新入社員のCAD習得レベルに、温度差が大きいと感じる。現在、業務においてパソコン能力は必須であるから、即戦力として使える技能を習得させてほしい。
- ④ 業界では、次世代の担い手となる若い人材確保が急務である。海外進出や海外との連携を進めるうえで、グローバルな能力の拡大が必要となる。また、女性の活用（「けんせつ小町」）やリーダーシップをとれる学生をどう育てていくかなど、専門学校としてのあり方が問われている。
- ⑤ 現場では人材不足が深刻である。早期離職者対策はもちろん、実習やインターンシップを通じて、もっと業界の魅力を知ってもらいたい。自然災害発生時の初期対応の大切さなど、積極的に業界アピールを行ってほしい。

※PRESIDENT NEXTにて『ダムの日』として連載していた漫画作品『昼間のパパは光ってる』（羽賀翔一著）が刊行された。“縁の下の力持ち”と称されることの多い土木業界で、ダム造りに取り込む若手技術者が、働く喜びと苦悩、支える家族達への想い、葛藤を乗り越えながら成長していくビジネスドラマである。ぜひ学生たちにも紹介していただきたい。

- ⑥ CAD技能も大切であるが、手描きの製図力も重要である。建築士等の資格試験対策はもちろん、その場でスケッチを描ける能力が求められる。また、模型づくりの指導を進めるとともに、木造建築の仕口や継手などの伝統的な技術も知っておいてほしい。
- ⑦ 積算業務は、地味で人気がない印象である。コスト管理の重要性を知り、全体のコスト把握ができる視点を持つなど、積算の魅力がわくような教育指導を期待する。
- ⑧ 現在のスーパーゼネコンの現場管理者でも、施工図を書けない、図面を理解できない、仕事の内容を理解できていない、など若い人材の能力の偏りや力不足が浮き彫りになっている。現在の学生にもある程度、施工図を読み扱えるような実務に通じるような授業を行ってほしい。

3) 平成 28 年度 デザイン系学科のカリキュラム変更について (予定)

平成 28 年度 建築 CG デザイン学科、空間デザイン学科のカリキュラム変更について討議を行う予定であったが、本議案は時間の都合により実施できなかった。

以上、頂戴した意見をもとに今後も教育課程や教育内容の見直しをすすめ、即戦力として活躍できる技術者育成をめざして、職業実践教育のカリキュラム編成を進めていく予定である。

(5) 次回開催日時等の決定

日 時：平成 29 年 2 月中旬

場 所：修成建設専門学校 146 教室

内 容：未定

以上

(記録・文責：中安哲男・谷川博康)